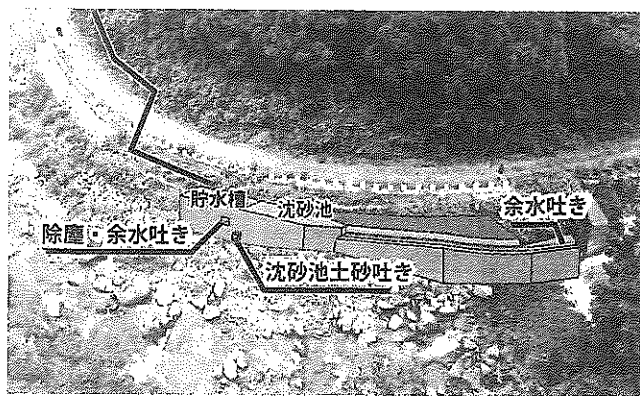


2021年(令和3年)3月23日(火曜日)



水力発電所(取水部周辺)のイメージ図

196・8㎡程度の発電設備や水道関連の設備を新設するとともに、水圧管路を1092mにわたり保安林管理道に埋設する。同社が土木関連工事を請け負い、小水力発電設備や保守管理は地域小水力発電(高知県)が担当。

深松組(本社・仙台市、深松努社長)は創業の地である朝日町で、小水力発電事業と老朽化した簡易水道施設更新を組み合わせたプロジェクトを展開する。計画では、同町笹川地区を流れる笹川に、最大出力

朝日で発電+水道事業

過疎地域インフラ維持に一役

深松組

総事業費は7億5000万円を見込む。6月の着工、2023年6月の発電開始を目指す。

笹川地区には100世帯

余りが居住。笹川自治振興会が管理する簡易水道施設は老朽化が著しく、更新には多額の費用がかかる。そこで同社は更新および維持管理費用を確保するため、小水力発電事業を組み合わせた手法を提案。すみれ地域信託(岐阜県高山市)とともに事業スキームを考案した。町が水道設備新設費用を補助金で3割負担し、住民も建設用地をほぼ無償で提供

社会貢献活動の一環

供。北陸銀行も融資の際に優遇利率を適用するなどバックアップ。費用に発電収入も充てる算だ。プロジェクトを発表した当初(18年4月)より、許可可審査などで進捗がやや遅れたが、同社の深松隆北陸支店長は「着工にめどがつき、うれしく思う。地域の生活インフラを維持する社会貢献活動に意味がある。一日も早く完成させ、地域住民に喜んでもらいたい」と話している。過疎化が進む地方のインフラ維持には課題が多く、このプロジェクトが一つの手段となりそう